

2022年度選考



公益社団法人日本青年会議所

## JCI JAPAN TOYP エントリーシート



性別	男		
ふりがな	あおやま ゆうき		
氏名	青山 裕紀		
所属企業・団体名	株式会社Splink	所属企業・団体役職	代表取締役
活動カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> ビジネス、経済、起業 <input type="checkbox"/> 学術 <input type="checkbox"/> 文化 <input type="checkbox"/> 倫理、環境 <input type="checkbox"/> 青少年育成、世界平和、人権 <input type="checkbox"/> ボランティア <input type="checkbox"/> 科学技術 <input type="checkbox"/> 自己啓発 <input type="checkbox"/> 政治、法律 <input type="checkbox"/> 医療革新 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
活動エリア及び活動内容	脳の健康維持の新しい概念である「ブレインヘルスケア」に着目し、医療AIソリューションや医療機器プログラムの開発・社会実装を行っている。認知症になりにくい脳、適切な認知症の介入や治療ができるよう、医療課題である早期発見や診断の困難さの克服を目指す。ブレインヘルスケアを世界の当たり前にし、100歳になっても自分らしく生きられるよう脳の健康に新しい可能性を生み出している。		
質問①	<b>Q1. この活動を通してどのような未来を実現したいと思っていますか（ビジョン）</b> “すべての人につながりを、その日まで”、というビジョンに向かって活動している。認知症という病気は脳の変性により行動・記憶障害が出ることで、ヒトとコト、ヒトとヒトの”つながり”が失われる病気である。病気によって人々の”つながり”が奪われることなく最期の瞬間その時までその人がその人らしく生きられる未来を実現するために、Splink (Spring+Link: つながりの源) を創業した。		
質問②	<b>Q2. 未来を実現するために今行っている具体的な活動をお答えください（アクション）</b> 日本の認知症医療の知を結集し、AIと融合することで科学技術の社会実装を進めている。東京大学病院など十機関以上のアカデミアとの産学連携を通じ、正確な診断に寄与する診断支援プログラムを開発。脳MRI画像からAIで脳の健康リスクを定量化する脳ドック用AIプログラム「Brain Life Imaging」、専門医の暗黙知を形式知に置換するというコンセプトの脳画像解析プログラム「Brainer」など提供。		
質問③	<b>Q3. あなたの行っている活動は社会にどのような影響を与えていますか（インパクト）</b> 14.5兆円と言われる認知症による社会コストの低減に寄与している。大手医療機器メーカー等の提携パートナー経由での弊社サービスが利用可能な医療機関は国内で約2,000施設以上であり、認知症患者の約1割にあたる推定50万人の患者へのアクセスが実現している。AIによる診断支援技術の普及を通じて、仮に50万人の患者の発症・進行防止に繋がる場合、1兆円以上の社会コスト削減に繋がる。		
経歴 自己PR	慶應義塾大学を卒業後、キーエンス入社。最年少トップセールス達成、海外事業（北米事業開発、ブラジル法人設立、メキシコ法人マネジメント等）に従事する。再び北米に渡り、シリコンバレーVCで起業準備、2017年に株式会社Splink設立、2021年には累計20億円を超える資金調達を完了。米国ダートマス大学経営大学院(MBA)修了。2019年より理化学研究所生命機能科学研究センター客員研究員就任。		
活動内容写真	<ul style="list-style-type: none"> <li>厚生労働省主催「ジャパン・ヘルスケアベンチャー・サミット2021」で登壇</li> <li>脳ドック用AIプログラム「Brain Life Imaging®」。AIで脳の海馬体積を測定し、現在の状態と経年変化を可視化、受診者様目線のレポートをお届け</li> <li>グローバル・カンパニーであるシーメンスヘルスケアとの業務提携開始</li> <li>AI・脳科学の博士号を持つタレント揃いのR&amp;Dチーム</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		